

令和5年度 全国視覚障害早期教育研究会 研修会報告

令和5年10月21日（土）筑波大学附属視覚特別支援学校を会場に研修会を開催しました。4年ぶりとなる対面での本研修会へは12名の方にご参加いただきました。その概要をご報告いたします。

10:30～10:40 開会、事務連絡

10:40～12:00 事例検討会

13:00～15:25 情報交換会「視覚障害乳幼児の支援の取組と課題について」

「視覚障がい乳幼児における地域生活への支援～全盲児の通う保育園での事例～」

京都ライトハウス 古川千鶴先生

全国の盲学校に在籍する幼児児童生徒数は減少傾向にあります。令和5年度5月の数値では、全国の盲学校幼稚部に在籍する幼児数は163名となりました。在籍児の減少に伴って視覚障害乳幼児に関わる教員数も減少し、盲学校の教員であっても視覚障害乳幼児支援に関わる経験を積み重ねることが難しく、自校内だけでは教員同士が相互に実践を共有する機会をもちにくい状況にあります。

今回の研修会には教育現場、福祉機関それぞれの現場で乳幼児支援に携わる方、また関心のある方々が集まりました。事例検討会や情報交換会では、日々の取組や悩みを共有しながら自分の実践を見つめ直すとともに、これからの支援におけるヒントを得ることができました。また、教員・支援者として実践にかける思いを相互に共有、共感し合うことで、子ども達の心を育みながらよりよい成長を促すために奮闘しているのは自分一人ではないのだ、ということに気付くことができ、明日へとつながる力を得ることができました。

本研究会は、視覚に障害のある子ども達の心の育ちを重んじながら、子ども達一人一人の力を最大限引き出したいと願う教員・支援者が出会う場ともなっています。今回、本研修会にご参加いただきました皆様から寄せられた感想をご紹介します。研修会に参加できなかった皆様とも、その雰囲気を共有できればと存じます。

【お寄せいただいた感想から】

- ・参加人数が少な目でしたが、お互いの話をするには話しやすい人数だったのかと思います。自分自身の日々の子どもへの向き合い方を突きつけられたようで、本当に参加してよかったです。とても貴重な対面での研修で多くの方に参加してもらえたらと思います。
- ・初めての参加でしたが、先生方の経験から現場目線の実践的なお話を伺うことができ、とても勉強になりました。自分は子どもたちに何かできているだろうか日々考えていたタイミングで、本研修会に参加する機会をいただくことができ、頑張らないと気合を入れ直す機会になりました。心や思いを大切に、子どもたちと接していきたいと思います。ありがとうございました。
- ・なかなか、同じ幼稚部の先生方と話す機会がないので、現状を共通理解できてよかったです。
- ・各地の盲学校の日頃の取り組みの様子や子どもとかかわり合う教師が大切に考えていきたいことなど、ざっくばらんに話をしたり聴いたりすることができて貴重なひとときでした。

- ・皆様方とゆっくりお話しできて、とてもよかったです。
- ・先生方の日々の関わりや福祉での取り組みについて具体的に知ることができてとても勉強になりました。また、異動が多い中で専門性の継承の難しさについても改めて感じました。専門性を継承していくためには、本研修会のような気軽に話し合える場で具体的な事例を出し合い、自分が担当している子どもに落とし込んでいくことも必要だと感じました。視覚障害教育というマイノリティな分野で働く上で、経験年数の長い先生方の意見、思いを聞くことできるこのような機会はとても貴重でした。
- ・研修会を開催して頂いたことにまずお礼申し上げます。対面での研修会も催されることで活発な意見のやり取りも期待されるため、是非今後とも開催して頂きたいと思いました。全国の視覚支援学校のナショナルセンターとしての役割と期待を持つ筑波大学附属の幼稚部に来られる機会としても貴重な研修会です。
- ・和やかな雰囲気の中、素敵な方々に出会えて、ざっくばらんに情報交換しながら愚痴も思いも実践も語り合えて、初心にかえり、元気になりました。その中で、今、担当しているお子さんのしんどい部分を俯瞰で感じられ、指針を得るとともに改めて早期教育の重要性を感じました。
- ・参加の先生方の熱意に感動しました。本当に参加できて背中を押されたようで、がんばろうと思いました。
- ・県下1校の盲学校では、他の盲学校とつながる機会は全国規模の研究会しかないのが現状です。従来に増して、文字に表せる知識面の伝達以上に（それも大事ですが）、考え方や接し方、感じ方について人とつながっていくこと、一緒に悩み、喜び、考えてくれる場所があるということが切実に重要になってきていると感じます。